

次期弘前大学情報基盤システムに望むこと

岩手大学大学院連合農学研究科 鈴木 貴大
takahiro.suzuki.ppvd@gmail.com

1 はじめに

大学(院)生・研究者にとって、情報収集は必須である。情報収集するツールとして、書籍、インターネット等があげられる。そしてインターネットの普及と社会の情報化に伴い、書籍・文献の電子化が進み、紙媒体よりも、インターネットを介した情報のダウンロードで、パソコンの画面上で情報を得ることがほとんどとなった。一方で、研究者の大事な情報をインターネットを介して扱ったり(eメール等)、ほとんどの場合を電子情報としてパソコンに保存する。筆者の書きかけの論文(世紀の大発見につながるかもしれない)もその一つである。これらのことにより、情報漏えいを防ぐためのシステムが必要である。

2 弘前大学情報基盤システムの問題点

筆者はHiroin Wi-Fiや弘前大学のメールシステムをほとんど使ったことがない。筆者は弘前大学の修士に進学したのだが、引き続きHiroin Wi-Fiや学内のメールシステムを使うには再登録が必要である。それが面倒である。そこで現在は、研究室のWi-Fiを使い、メールもGoogleメールを使っている。また上記したが博士課程進学後、筆者は弘前大学の学籍番号がないので、学内の情報システムを引き続き利用するためには別途アカウント申請が必要となる。しかし、総合情報処理センターからは案内がなく、ホームページに記載があるだけである。これでは連大生が実質的に利用できない状態に等しい。これらのことより、筆者は大学院生にも使いやすい(使える)学内システムと丁寧な案内を目指して欲しいと考える。

3 おわりに

研究者にとって情報は財産である。情報の電子化により、誰でもインターネットを介して情報を得ることが容易になった。しかしその一方で、情報の不正利用・漏えいの危険性が増した。筆者は、情報を守るためにより一層強固なセキュリティシステムを望む。